

クォーター制を活用した多様な学外学修プログラムの展開 —主体的に学ぶ／未来志向性に優れた／グローバル社会で生き抜く学生の育成—

宇部工業高等専門学校

1 取組の概要

本校では、産業のグローバル化や知識基盤社会の到来に対して、グローバルな視点やコミュニケーション力、リーダーシップ力を育成するため、主体的な学びを促す機会として学外学修プログラムの拡充を目指している。クォーター制の導入により学事暦の柔軟化を図り、第2クォーターと夏季休暇を組み合わせたギャップタームを創出し、海外研修やインターンシップといった国内外での1か月以上にわたる学外学修への参加を促している。同時にクォーター制を活用した教育改革を進め、コンピテンシー向上を企図したカリキュラム改定を行っている。また、長期学外学修の事前学習として年間を通じた地域課題解決型地域教育を展開し、エンジニアリングデザイン能力醸成とともに、社会の抱える課題を自分事として認識し、自らが獲得した知識・技術と社会との接点や他国・他地域での解決方法との比較等を通じた視野の拡大を図る。

2 取組のポイント

- ・多様な長期学外学修プログラムの展開による主体性・未来志向性・グローバル化対応能力の伸張
- ・クォーター制の導入による学事暦の柔軟化とコンピテンシー向上を企図した教育改革
- ・地域課題解決型地域教育の展開によるジェネリックスキル向上とSDGsへのアプローチ

3 これまでの取組および実績

(1) 2017年度からの全学的なクォーター制導入により、短期間での集中的な学習による知識定着率の向上とともに、学事暦設計の柔軟化に伴う海外研修や長期インターンシップ等の学外学修への参加を促進できる体制を整備した。

(2) 長期学外学修の実質化に向けて、海外研修プログラムの開拓・再構築、長期インターンシップ受入機関の開拓ならびにこれらのプログラムへの参加者増へ向けた事前教育・事後教育の充実を図った。

(3) 地域課題解決を指向する地域教育を新たに展開し、エンジニアリングデザイン能力の醸成とともに、地域課題を自分事として認識し、自らが獲得した知識・技術と社会との接点に気付かせる機会を創出できた。

(4) 上記のプログラム群を正課科目として取り込むとともに、学科学年横断型プロジェクト学習等、協働性を高める科目群を新設するカリキュラム改定を行った。

これらの取組の結果、長期学外学修への参加が促進され、2018年度は長期海外研修参加者数が71名(全学生の6.4%)、長期インターンシップ参加者数が44名(対象学生の18.6%)となった。2019年12月には、これまでの取組・成果を共有する場としてシンポジウム「真のグローバル人材育成へ舵を切る高等教育」を開催したほか、テーマIV採択校合同シンポジウムや全国高専フォーラム等にて成果報告を行い、本校の取組成果を公表した。また、上記の取組内容、成果ならびに課題を本校AP事業ウェブサイト(<http://www2.ube-k.ac.jp/ap4/>)にて広く社会へ発信している。最後に、教育改革は端緒についたばかりであるが、2019年度の評価に基づき引き続き改善を進めていく。